

平成30年度 若松原中学校 学校評価書

1 教育目標（目指す生徒像含む）

（1）基本目標

人間尊重の精神を基盤として、知・徳・体の調和のとれた高い知識と豊かな心を持ち、たくましい人間を育成する。

（2）具体目標（目指す生徒像）

- ① 自ら学ぶ生徒
- ② 心豊かな生徒
- ③ たくましい生徒

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

テーマ 「主体的に学力を高め、心を耕し、心身を鍛える生徒の育成」

知識基盤社会の時代といわれる21世紀を生きる人間にとって、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視した「生きる力」を育むことは、ますます重要である。そのため、歴史と伝統及び良き校風を大切に繋げ、発展させ、人間尊重の教育を推進し、未来を切り拓く意欲や豊かな創造性の育成に努め、創意ある教育課程を編成して、生徒自らが主体的に学力を高め、奉仕と思いやりの心を育て、心身を鍛えることで、教育目標を達成させるようにする。

また、生徒が生き生きと主体的に取り組む教育活動の実践のため、学業指導の充実、学校園及び学区内の小中学校との連携や協同の充実、学校の公開や情報の発信、家庭・地域・企業との連携や協同の充実などを意図的・計画的な学校経営を行うことで、保護者・地域住民から信頼される学校づくりをする。

3 学校経営の方針（中期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （1）学業指導の充実を図ることで、確かな学力、豊かな心、健康・体力を育む。
- （2）基本的な学習習慣や態度を身に付けさせ、分かる授業を通して確かな学力を育成する。
- （3）自己肯定感・自己有用感を育み、生命尊重と他人を思いやる心を持った生徒を育成する。
- （4）基本的な生活習慣の確立・集団規律の遵守を通して、規範意識の向上を図る。
- （5）教職員自らが課題意識を持ちながら、教育の専門家としての自負を持って研鑽に励む。
- （6）学校の公開や情報の発信（HP、各種たより等）を積極的に行うことで、家庭、地域、関係機関等との連携を強化する。
- （7）○小中一貫教育の充実、地域学校園の連携や協同を積極的に図ることで、児童生徒が発達段階に応じた一貫性のある教育を継続的に実践する。

【若松原地域（WGS）学校園教育ビジョン】

「つなげよう学び 育てよう心と体 共にのびよう WGS 学校園」

小学校入学から中学校卒業・進路の実現までの9年間の学校教育を「関わる教職員の思いと責任を共有し連携して、児童生徒のそれぞれの発達段階に応じた一貫性のある教育や指導として」継続的に実践する。

4 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

～自己実現（社会的自立）を図るための指導・支援の充実～

- ・「学びに向かう集団づくり」と「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」の充実
- ・主体的に判断し、行動できる生徒の育成
- ・心身の健康を把握し、自他への思いやりの心の育成

○学力向上のため、小中一貫教育の教科部会や分科会の充実

【学 習 指 導】

～学びに向かう集団づくりと子どもが意欲的に取り組む授業づくり～

- ・学び合い活動を通して、コミュニケーション力の向上を推進する。
- 分かる授業を展開し、生徒の学習意欲の向上を図る。

【児童生徒指導】

～自己指導能力の育成～

- ・自ら判断し、責任を持って実行できる生徒を育成するため、自己指導能力の育成・向上を図る。
- 自ら課題に立ち向かい、思いやりと協同を実行し、自他共に成長できる学習集団の雰囲気を作り、学力向上の基礎・基盤となるよう推進する。

【健康、保健安全、体力】

～心身共に健康的な生活を目指して～

- ・健康・運動・食に関する指導を通して、体力の維持や増進・食習慣や食のマナーの体得など、健康的な生活習慣づくりを推進する。
- ・自他の生命や心の健康を大切にし、知識・理解を深めて安全で豊かな生活を送れるようにする。

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「私は、今の学校が好きです」 ⇒ 生徒の肯定的回答 88%以上 → 85.2%	・居がいのある学校をめざし、学校行事等生徒が主体的に活動できる場をより多く設定し、自尊感情を育成する。 ・学校行事や生徒会活動の目標や趣旨を十分に理解させ、お互いに励まし、認め合う集団づくりを実践していく中で、生徒一人一人が達成感や自己肯定感を得られるよう諸活動を推進していく。	B	【達成状況】 生徒の肯定的評価は 85.2%(昨年度よりも 2 ポイントダウン)であり、数値目標の 88%を 2.7 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・学校行事や生徒会活動や部活動の趣旨を十分に理解させ、お互いに励まし、認めあう集団づくりを学校、学年、学級で行う。その中で、生徒一人一人が達成感や自己肯定感を持てるよう教師が意図的に励まし、称賛を行い、学校のいきいきとした雰囲気作りに努める。
	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生は、大切なことを熱心に指導してくれる」 ⇒ 生徒の肯定的回答 95%以上 → 93.3%	○学習や活動のねらいを明示し、授業の中で、できた喜びや成就感を実感できる場や機会を意図的に設け称賛する。 ・生徒一人ひとりが自尊感情を高め、学習や諸活動に生き生きと取り組めるよう、校内研修を充実させ、教職員の資質、能力の向上を図っていく。	B	【達成状況】 生徒の肯定的評価は 93.3%で、数値目標の 95%をやや下回っている。教職員の数値が前年度よりも下がっている。 【次年度の方針】 ・より効果的な授業を行うための研修として、公開授業による研修を行い、そこで学んだ手法をその後の授業に生かす。 ・体育祭や文化祭などの活動の中で、生徒に達成感を味わわせる。
	A 3 生徒は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒ 生徒の肯定的回答 85%以上 → 78.2%	○家庭や地域に生徒の様子を理解していただくこととルールや法律を遵守する判断力と行動力が身につくように協力を要請する。 ・日常的な心の教育のさらなる充実と、教科化を視野に入れた道徳の時間の指導の改善を図る。 ・生活マナー等においては、学校生活のあらゆる場面でその都度指導していくとともに、家庭や地域へ協力を要請していく。	A	【達成状況】 生徒の肯定的評価は 78.2%で、数値目標の 85%を大幅に下回った。また、保護者や地域の方々の肯定的評価も下がっている。 【次年度の方針】 ・教職員の意識改善 ・日常的な心の教育のさらなる充実と、道徳の授業内容や指導の改善を図る。 ・ルールを守ろうとする気持ちはあるが、生活のマナーを守ろうとする意識が低い。どのような行為が周りに悪影響を及ぼしているかが理解できるように、支援していく。

A 4 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方の授業は分かりやすく、一人ひとりに丁寧に教えてくれる」 ⇒ 生徒の肯定的回答 88%以上 → 88.3%	○個に応じたきめ細かな指導を行い、数学科、英語科では習熟度別学習やTTなど指導形態を工夫し、学力の向上を目指す。 ○授業の始まりに授業のねらいや身に付けたい力を示したり、授業の最後には、振り返りを行ったりすることにより、生徒の学習活動をより活発にするための指導法の改善を図る。 ・生徒一人ひとりが意欲的に学習に取り組み、学力の向上が実感できるよう、教職員が互いに研鑽する機会を充実させ、授業改善をさらに進めていく。	【達成状況】 生徒の肯定的評価は 88.3%で、昨年度の 87.4%から 0.9 ポイント上がり、数値目標の 88%を達成した。 【次年度の方針】 ・分かる授業を展開し、個に応じたきめ細やかな指導を充実させるため、教科部会を通じた研鑽の機会を増やす。また、導入されるタブレット端末をはじめとする学習機器の活用を促進し、確かな理解と定着を図る。
A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケートの「先生方はいじめは許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 95%以上 → 96.7%	・毎日の校内巡回やスタンダードダイアリーの確認、定期的な教育相談やいじめ調査等を活用し、いじめへの早期対応や早期発見・未然防止に努める。 ・学校がいじめ対策について、保護者会やホームページ、学年通信等、あらゆる機会を利用して周知していく。 ・いじめの問題は、学校、家庭、地域及び関係機関が連携して取り組むべき問題であることを機会あるごとに啓発していく。	【達成状況】 生徒の肯定的評価は 96.7%で数値目標の 95%を上回っている。 また、保護者の肯定的評価が昨年度の 64.4%から 74.3%と上がっており、学校での取組が理解されてきた。 【次年度の方針】 ・いじめのアンケートを年5回実施し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努める。 ・学校がいじめ対策について、保護者会や学年通信、ホームページ等、あらゆる機会を利用して周知していく。 ・いじめの問題は、学校、家庭、地域及び関係機関が連携して取り組むべき問題であることを機会あるごとに啓発していく。
A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 全体アンケートの「学校の日課・授業・行事などは、適切に実施されている」 ⇒ 保護者の肯定的回答 96%以上 → 94.7%	・校務運営委員会で行事などの日程調整とともに校務分掌の進捗状況等を話し合う場を設けることで、教育課程表の適切な実施に努める。 ・本校の実態や課題等を踏まえ、生徒一人一人にとって有効で自己存在感を高めることができるような教育課程の編成に努める。	【達成状況】 「日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている」の肯定評価は 94.7%で数値目標を下回っている。 【次年度の方針】 ・本校の実態や課題等を踏まえ、生徒一人一人にとって有効で自己存在感を高めることができるような教育課程の編成に努める。
A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒ 保護者及び地域住民の肯定的回答 93%以上 → 90.5% 90.0%	・各種便りやホームページ、校門付近に設置してある掲示板等の積極的な活用により保護者、地域住民への情報発信に努める。特にホームページの更新日を定期的に設けていく。 ○小中一貫教育について理解していただくための情報提供とともに、オープンスクール等を利用して地域に対しても授業を公開するなどにより中学校教育への理解を深めてもらう。	【達成状況】 「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」の保護者及び地域住民の肯定的評価は 90.5%、90.0%で数値目標である 93%以上を下回っている。 【次年度の方針】 ・次年度も各種便りやホームページ、校門付近に設置してある掲示板等の積極的な活用により保護者、地域住民への情報発信に努める。特にホームページについては、各行事担当者と連携し、定期的に更新していく。 ・小中一貫教育についても、地域として取り組んでいることを積極的に PR していく。

A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った学校づくりが推進されている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒ 保護者および地域住民の肯定的回答 90%以上 → 87.9% 88.9%	・若松原中学校地域協議会との連携を図ることを通して、地域の教育力を学校教育活動に生かせる場を設けていく。 ・地域や企業に本校の実態についての情報を積極的に発信することなどを通して、連携を深め、1年生の「働く人に学ぶ」、2年生の「社会体験学習」において、より効果的な学習が展開できるように努力していく。	【達成状況】 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」の保護者の肯定的回答が 87.9%、地域住民の肯定的回答が 88.9%で数値目標の 90%よりどちらも下回っている。 B 【次年度の方針】 ・次年度も各種便りを積極的に活用するとともに、ホームページについては更新間隔をできるだけ短くし、保護者、地域住民への最新情報の発信に努める。
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、荷物や備品が整理整頓されるなど、学習しやすい環境である」 ⇒ 保護者の肯定的回答 88%以上 → 86.2%	・施設の老朽化が進み、修繕が必要な箇所が多数あるため、生徒の安全を第一に考えながら、市教委と連絡を密にし、計画的に修繕を進めていく。 ・日頃の清掃活動については、その方法の改善を図りながら、さらなる充実を図っていく。 ・PTAには奉仕活動等による環境美化への協力を依頼していく。 ・地域協議会に対しては、本地域ならではの強みを生かした学校バラ園・花壇の整備等の協力を引き続き依頼していく。	【達成状況】 「学校は、荷物や備品が整理整頓されるなど、学習しやすい環境である」の保護者の肯定的評価が 86.2%で数値目標の 88%より下回っている。 B 【次年度の方針】 ・施設の老朽化が進み、修繕が必要な箇所が多数あるため、生徒の安全を第一に考えながら、市教委と連絡を密にし、計画的に修繕を進めていく。 ・日頃の清掃活動については、その方法の改善を図りながら、さらなる充実を図っていく。 ・PTAには奉仕活動等による環境美化への協力を依頼していく。 ・地域協議会に対しては、本地域ならではの強みを生かした学校バラ園・花壇の整備等の協力を引き続き依頼していく。
A 10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている」 ⇒ 生徒の肯定的回答 70%以上 → 61.4%	・生徒会を中心に合同のあいさつ運動を行ったり、ボランティア活動で交流したりすることにより、生徒の地域学校園の一員であるという意識を高める。 ・各小・中学校の地域協議会との連携を図り、小・中学生がともに取り組むことのできる活動を探し、生徒に積極的に参加するよう呼びかけていく。 ・交流授業を通して、小学生の中学校に対するギャップの軽減を図る。	【達成状況】 「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている。」の生徒の肯定的回答が 61.4%で数値目標の 70%より下回っている。 B 【次年度の方針】 ・生徒会を中心に行っている合同あいさつ運動やボランティア活動での交流を、校内の掲示板等を利用して生徒へ積極的に情報発信していく。 ・生徒会朝会や校内放送等を利用して、活動の実績報告やボランティアの募集等を行い生徒に積極的に情報の発信を行う。
A 11 多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。 【数値指標】 全体アンケートの教職員の肯定的回答 ⇒ 80%以上 → 50.0%	・SCMや特別支援コーディネーターを中心にSCやMSとの連携を行い、教育相談を充実させる。 ・かがやきルームを活用し、生徒への学習支援を促進する。 ・PTA事務員の活用によりPTA役員との連絡調整や会計事務などPTA事務の業務を縮減させる。 ・2名の地域コーディネーターと連携を密にし、役員の連絡や運営についての仕事を分別し効率化を図る。	【達成状況】 「多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている」の肯定割合は 50%で数値目標を下回っている。 A 【次年度の方針】 ・SCMや特別支援コーディネーターを中心にSCやMSとの更なる連携と教育相談の充実を図り生徒一人一人に合った指導・支援を行う。

教育活動の状況		A12 教員は多様な専門性を有する学校スタッフと円滑なコミュニケーションが図れている。 【数値指標】 全体アンケートの教職員の肯定的回答 ⇒ 80%以上 → 73.9%	・SCやMS、かがやきルーム指導員に週1回開催する教育相談部会に参加してもらい連携を図る。 ・PTA事務員の座席を事務室に確保し、時間的にも空間的にも連携が図れるようにする。 ・地域コーディネーターと地域連携教員の連携を密にし、信頼関係を構築しながら業務を遂行する。	【達成状況】 教職員の肯定割合は 73.9%で、目標値 80%をやや下回っている。 【次年度の方針】 ・養護教諭、SC、MS、かがやきルーム指導員と週1回開催する教育相談部会で連携を図るとともに、専門的なアドバイスを生徒支援に生かす。 ・給食や「お弁当の日」等の行事を通して栄養職員と連携し、生徒の健康的な食生活を促進させる。
		B1 読書の習慣化を図り、心豊かな生徒を育成する。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、本（読書）が好きになった。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上 → 75.0%	・学校図書館、学級文庫の整備を進めるとともに、「図書だより」や掲示物を活用して良書を積極的に紹介する。また、年間を通して計画的に朝の読書を実践する。 ・読書の醍醐味を伝える活動を強化するとともに、家庭にも毎日の読書時間の確保などの協力を仰ぎながら、読書意欲の向上につなげていきたい。	【達成状況】 肯定割合は教職員 80% 保護者 56.0% 地域 100% 生徒 75%で、目標値 80%を下回っている。 【次年度の方針】 ・公共図書館と連携を密にし、国語科以外の教科でも図書室の利用の機会を増やし、生徒の利用の習慣化へつなげたい。 ・保護者の協力を得て家庭でも読書の時間を増やしてもらったり、地域協議会の図書館ボランティアの支援を受けたりして、「読書の楽しさ」に触れさせ「読書の質の向上」を目指したい。
	生徒生活	A13 生徒は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒はあいさつをしている」 ⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上 → 90.9%	・「先行あいさつ」の拡大を図る。また、「あいさつ推進運動」を通して、リーダーの育成を図るとともにコミュニケーション力の育成も図る。 ・PTA 及び地域協議会と連携した「あいさつ運動」や下校指導を通して、地域との結びつきを強め、地域全体であいさつが飛び交う雰囲気作りを中学校から発信していく。また、地域社会の一員であるという自覚を持たせ、地域のために協力していく心を育てていく。	【達成状況】 「生徒はあいさつをしている」の肯定的評価が 90.9%で、数値目標の 90%を上回っている。 【次年度の方針】 ・PTA 及び地域協議会と連携した「あいさつ推進運動」や下校指導を通して、地域社会の一員であるという自覚を持たせ、地域のために協力していく心を育てていく。 ・中央委員会を中心とした「生徒会あいさつ運動」を拡大させ、リーダーの育成を図るとともにコミュニケーション力の育成も図る。
		A14 生徒は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒は正しい言葉づかいをしている」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上 → 80.1%	○学校生活のあらゆる機会を捉えて T. P. O. に応じた正しい言葉づかいができるように指導するとともに、正しい言葉遣い強調週間を設け、生徒及び教職員の意識を高め、指導を徹底する。 ・言葉づかいを見直す週間を設け、道徳や学活、宮チャレなどとも関連させながら、生徒および職員の意識を高める機会とする。 ・学校だよりや保護者会等で家庭へも現状を知らせ、家庭と協力して正しい言葉遣いを推進していく。	【達成状況】 生徒の肯定的評価は 80.1%で、昨年度の 79.9%から微増し数値目標の 80%を達成した。しかし、教職員の肯定的評価は 58.7%で、生徒との意識差が大きい。 【次年度の方針】 ・教職員が疑問に思っている生徒の言葉づかいに対して、授業中や休み時間等、学校生活のあらゆる機会を捉えてきちんと指導していく。 ・学校だよりや保護者会等で家庭へも現状を知らせ、協力して正しい言葉づかいができるよう指導していく。 ・言葉づかいを見直す週間を設け、道徳や学活、宮チャレなどとも関連させながら、生徒および職員の意識を高める機会とする。

健康・体力	A15 生徒は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は休み時間や放課後などに積極的に運動している」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上 → 74.3%	・保健体育委員会を中心に、昼休みの運動を呼びかける。 ・体育の授業における各種競技において個人の目標を設定し、目標を持たせることで、主体的に運動に取り組むきっかけとする。	【達成状況】 「自分は休み時間や放課後などに進んで運動している」の肯定的評価は 74.3%と数値目標の 80%を下回っている。昨年度の 78.0%よりも下回っている。 B 【次年度の方針】 ・昼休みや放課後の運動について、生徒への呼びかけをしていく。 ・使用できる施設や物品の検討を行い、生徒が運動しやすい環境づくりに力を入れる。
	A16 生徒は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、給食を好き嫌いなく食べている」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上 → 76.9%	○地域学校園内で連携を図りながら、食育の充実を図る。 ・給食指導、学級活動等で栄養のバランスが大切であることを理解させるとともに、その実践が健康な生活につながることを継続して指導いく。 ・献立表や食育だより等を活用し、保護者への啓発を行うとともに協力を依頼し、連携しながら食育の充実に努める。	【達成状況】 「自分は、給食を好き嫌いなく食べている」の肯定的評価が 76.9%で数値目標の 80%をやや下回っているが昨年の 73.4%から 76.9%へと少しずつ改善しつつある。 B 【次年度の方針】 ・給食指導、学級活動等で栄養のバランスが大切なことを理解させるとともに、その実践が健康な生活につながることを継続して指導いく。 ・献立表や食育便り等を活用し、保護者への啓発を行うとともに、家庭と連携しながら食育の充実に努める。
	B2 生徒は、毎日朝ごはんを食べている。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、毎日朝ごはんを食べている。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 95%以上 → 93.6%	・朝ごはんを食べることによる学習面や生活面への効果を科学的に指導するとともに、各家庭への理解と協力を引き続きお願いしていく。 ○地域学校園としてお弁当の日を通して小学校から食への意識を高めていくことも実施する。	【達成状況】 生徒の肯定的評価は 93.6%であり、数値目標の 95%をわずかに下回っている。 B 【次年度の方針】 ・朝食を食べることによる学習面や生活面への効果を科学的に指導するとともに、各家庭への理解と協力を引き続きお願いしていく。 ・生徒保健体育委員会、給食委員会で、朝食の重要性について意識づけを図る。 ○地域学校園が連携しながら「お弁当の日」等を実践することで、9年間を通して食への意識を高めていく。
学習等	A17 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒は、授業中に進んで話合うなど、積極的に学習している。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 85%以上 → 84.5%	・学習指導主任や教科・領域主任を中心に、本校の実態に合わせて「教えて考えさせる授業」を展開する。 ・探究型の授業や言語活動の充実を図り、生徒一人一人が主体的に取り組むような授業づくりを進める。 ・授業中における集団づくりを実践する。 ・学力の向上に向け、各教科部会の充実を図り、一人一人の能力や適性、特性、意欲の状態等の現状を把握し、個に応じた支援策を講じていく。	【達成状況】 生徒の肯定的評価は 84.5%で、数値目標の 85%をわずかに下回った。昨年度の 84.6%からは、0.1ポイント下がり、ほぼ変化なしであった。 B 【次年度の方針】 ・生徒の主体的な学習が行われるよう、グループによる話し合い活動を積極的に取り入れる。 - また、話し合いの活性化を促すため、話し方マニュアルを作成、掲示する。

	A18 生徒は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「生徒は、先生や友達の話をよく聞くなど落ち着いて学習している」 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上 → 68.2%	○生徒一人一人に即した授業を展開し、学業指導の充実を目指す。 ・定期的に授業研究会を実施するなど、教科部会のさらなる充実を図り、お互いの教師力の向上を目指す。 ○「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」をさらに充実させるため、アクティブラーニングの考え方から学習活動を見直し、効果的なグループ活動や話し合いについて研究する。	【達成状況】 生徒の肯定的評価は 68.2%で、数値目標の 80%を大幅に下回った。昨年度の 73.3%からは、5.1 ポイント下がった。 【次年度の方針】 ・落ち着いた学習態度が身に付くよう、月ごとの学習目標を設定し、学習規律の定着を促進する。また、生徒会活動を通して、生徒自身に考えさせ、自己改善を促す。 ・聞く態度の育成を地域学校園で 9 ヶ年かけて形成していく。
	A19 生徒は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。 【数値指標】 ⇒ 生徒の肯定的回答 80%以上 → 81.4%	・生徒会で企画運営を行う地域のクリーン活動を行い、ボランティア精神を育てる。 ・地域の行事のポスターを貼って紹介するなど P R 活動によって参加を促す。 ・ボランティア委員会でボランティアカードを作成し、意欲を高める。	【達成状況】 今回から新設された項目であったが、生徒の肯定的評価は目標値を超えた。 【次年度の方針】 ・ボランティアの周知を徹底するとともに、多くの生徒が様々なボランティア活動に参加できる環境をつくる。
	B3 チャイムを守って授業にのぞんでいる。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、チャイムを守って授業の準備をしている。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 85%以上 → 84.2%	・時間を守ることの大切さを教師自ら率先垂範し、生徒の意識を高めていく。 ・各クラスのリーダーを育成することを通じて、生徒自ら主体的に「5 分前行動」の呼びかけを行い、共通理解を図りながら、時間を守るムードの醸成を図る。	【達成状況】 生徒の肯定的評価は 84.2%で、昨年度の 85.6%より下回り、本年度の数値目標である 85%をもわずかに下回った。 【次年度の方針】 ・時間を守ることの重要性を生徒に繰り返し指導し、一人一人が時間を守って主体的に行動しようとする意識を高めていく。また、教師は率先垂範して行動し、時間を守ることの大切さを示す。
本校の特色・課題等	B4 居がいのある学校づくりのひとつとして生徒主体の学校行事に向け改善を図る。 【数値指標】 全体アンケートの「自分は、体育祭や文化祭で一生懸命活動し役割を果たせた。」 ⇒ 生徒の肯定的回答 90%以上 → 96.6%	・生徒が達成感を得られるよう、計画的な準備と細かな点にも配慮された指導を心がける。 ・学校行事等において生徒の自主的な活動を促し、生徒の自尊感情の育成や他者理解を意図的に推進する。 ・「生徒の生徒による生徒のための」学校行事となるよう、教職員が共通理解を図り、生徒一人一人が主体的に活動できるような場を設定する。	【達成状況】 職員の肯定的評価は 97.8%で数値目標を上回っている。 【次年度の方針】 ・生徒が達成感を得られるよう、計画的な準備と細かな点にも配慮された指導を心掛ける。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

☆アンケートから概ね良好と考えられること

「教職員・保護者・地域住民・生徒の全てで肯定的回答が 80%を超えている項目」は以下のように 8 項目であった。

(A1) (A2) (A4) (A6) (A7) (A8) (B2) (B4)

昨年度は 9 項目であったので、本年度はほぼ同数であったと考える。また、肯定的回答が昨年より 3 ポイント以上増加している項目(評価対象数値)は 1 項目(B2)あり、継続的な取組がよい効果につながっている結果が得られた。今後も、具体的な目標を設定しながら取組の強化を図っていきたい。

★アンケートから課題と考えられること

「評価者の中でいずれかの肯定的回答が70%未満の項目」は、以下の通り7項目あった。

- (A9) 学校は、清掃が行き届き、荷物や備品などが整理整頓され学習しやすい環境である。(教職員)
- (A10) 学校は、小学校や中学校が連携した取り組みを主体的に行っている。(生徒)
- (A11) 多様な専門性を有する学校スタッフの活用により、教員の業務が縮減されている。(教職員)
- (A14) 生徒は、時と場に応じた言葉遣いをしている。(教職員)
- (A18) 生徒は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している。(生徒)
- (A19) 生徒は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。(保護者)
- (A23) 生徒は、本(読書)が好きになった。(保護者)

・上記7項目についての改善策は、それぞれの項目に記入したことをもとに組みんでいきたい。

・特に(A18)については、次年度の本校学習指導の重点目標し、年間を通して改善に取り組みたい。それとともに地域学校園の課題として小中一貫で取り組むとより効果がでけると期待される。次年度の学習指導部会にて検討していく。このことは(A10)の項目への関連も関係している点である。

・(A19)については生徒の肯定的回答は80%を越えているので、ホームページや学校便り等で地域や保護者へのPRを図っていききたい。

(A14)については、生徒の肯定的回答は80%を越えており、教師と生徒の認識の差がある。この点は、キャリア教育との関連を図り、宮っ子チャレンジや修学旅行等の学校行事、高校受験などを実践の場とし、将来に必要な力として身につけさせたい。

◆昨年度「評価者の中でいずれかの肯定的回答が70%未満の項目」の5項目についての検証。

- (A5) 「学校はいじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる。」(保護者 H29 64.4%→ H30 74.3%)
- (A9) 「学校は、清掃が行き届き、荷物や備品などが整理整頓され、学習しやすい環境である。」(教職員 H29 68.6%→ H30 58.7%)
- (A10) 「学校は、小学生や中学生が連携した取組を主体的に行っている。(生徒 H29 68.8%→ H30 61.4%)
- (A14) 「生徒は、時と場に応じた言葉づかいをしている。」(教職員 H29 62.7%→ H30 58.7%)
- (A20) 「生徒は、本(読書)が好きになった。」(保護者 H29 54.3%→ H30 56.0%)

・(A5)の「学校はいじめ対策」については、H28からH29で12.8%の増加が見られた。さらに今年度は9.9%の増加となった。生徒へのアンケート等の充実を図り、保護者会等での周知や啓発に取り組んできた成果と考える。今後はさらに、あらゆる機会を通して学校と家庭、地域及び関係機関との連携が重要であることを周知しながら、いじめ防止に向けて取り組んでいきたい。

・(A9)(A14)の2つの項目は、教職員の評価が他評価者より低い結果である。今後は現状をきちんと把握しながら、必要に応じて具体的な手立てを講じ、指導の充実を図っていききたい。

・(A10)については、生徒にとって、よりよい連携とはどのようなものかをきちんと検証し、地域や関係機関と協議しながら主体的な活動になるよう取り組んでいきたい。一方では、同項目の教職員、保護者、地域のそれぞれの評価は、91.3%、83.0%、100%と高い評価を得ている。生徒には見えない取り組みが多くあるので、評価対象を次年度は、「生徒」から「教職員」に変更したいと考えている。

・(A20)については、保護者評価が、生徒評価より19%低いことから、家庭の中で読書の習慣が見られないものと考えられる。学校図書館の利用の充実を図るとともに、生徒や保護者に、学校以外での読書時間の確保が、学力向上や多様な考え方の形成に効果があることを知らせ、今後も読書意欲の向上を図っていききたい。

6 学校関係者評価

(B1)について

・図書ボランティアで小学校へも行っているが、中学生は小学生と比べて休み時間に図書室へこない傾向がある。もっと休み時間の図書室利用を呼びかけてはどうか。

・小学校でも休み時間に図書室使用は少ない。小学校では、読書週間での児童への呼びかけや新しく入った本の紹介を行っている。

・小学校では図書ボランティアの方々による本の読み聞かせを行っている。また、授業での図書室使用を促し、図書室に足が向くようにしている。

(A19)について

・地域のボランティア活動やイベント情報が、学校へスポット的にしか提供できていない。来年は年間を見越しての情報を

提供し、生徒のボランティアの場を提供したい。

・2022年から18歳で成人になる。それに向けて小学校では、社会の一員としての気持ちを育てる教育をしている。低学年では家族の一員として、中学年ではクラスの一員として、高学年で学校の一員として段階的に指導しており、将来は地域の一員として地域を守る子を育てたいと考えている。これを中学校へつなげ、小中一貫で、または地域と一体となって子どもを育てられるような学校作りに取り組んではどうか。

・地域に高齢者施設が4カ所あり、そこでのボランティアを募集している。入居者が喜ぶので、希望があれば参加してほしい。

（その他）

・生徒が一年間どんな予定があるのかどんな活動をしているのかくわしく知りたい。春に一年間の予定表でもいただけるとうれしい。

・登下校時地域の者に挨拶をしてくれる様になった。受けた方もうれしい。こちらも進んで若中の生徒に挨拶をしたい。

・生徒は全体的に明るく学校生活を楽しんでいると思う。生徒は、あいさつをもっと元気に出来ると良い。

・中学生ボランティアの小学校への派遣に感謝したい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・学校評価について、生徒・保護者・地域住民の多くの方々から回答をいただいた。本校では、前年度の学校評価をもとにそれぞれの項目の目標数値を少しずつ高め設定し、その目標達成に向け改善を進めてきた。その結果、約1／4の項目で目標を達成することができた。しかしその反面、目標数値をクリアできなかった項目もあり、また、中には厳しいご意見もあり、それらについては期待の表れとして捉え、教職員一同、課題の改善に向けて努力していきたい。

・(B1)「生徒は本が好きになった」については、次年度、図書室の利用についてPRするとともに、図書ボランティアや司書職員を中心に、朝の読書の時間を利用したブックトークを行うなど、生徒の読書に対する興味関心を高める活動をしてきたい。

・(A19)「生徒は、地域でのボランティア活動や行事に参加している」では、年間を通して、ボランティアに参加できる行事について生徒に提示する。塚山古墳清掃など市の文化課とも共同して、活動の場を提供する。

・(A1)「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」については、教職員、保護者、地域、生徒とも肯定的回答が高く、学校関係者の方からも高く評価されている。これは、生徒の「自分で考え実行する」という意識が高まり、「生徒の生徒による生徒のための活動」がより充実した成果である。次年度以降も互いの良さを認め合う活動をさらに推進しながら、具体的目標を明確にして「学びに向かう集団づくり」を実践していくことにより、互いに励まし合い、認め合うことのできる学校づくりを目指していきたい。

・(A5)「学校は、いじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる」については、教職員や生徒の肯定的回答は比較的高いものの、保護者の肯定的回答は比較的低い項目であった。学校では、定期的にいじめに関するアンケートを実施したり、職員研修を行ったりして、いじめの未然防止や早期発見、早期解決に向け努力しているが、その情報発信が十分ではなかった。次年度は、これまで以上に保護者会や生徒指導便り、学年通信等、あらゆる機会を利用して本校のいじめ対策について周知していくと共に、いじめの問題は、学校、家庭、地域及び関係機関が連携して取り組むべきものであることを機会あるごとに啓発していきたい。